

もっと広がる クズリの世界

妊娠と薬

「妊娠中には薬が飲めない」「持病があり、継続的に薬を飲んでいるから妊娠は難しい」と思われる方は多いでしょう。妊娠を望んでいる時、または妊娠中の服薬の注意点をお話しします。

まず、妊娠を望んでいることを、あら

諦めず事前に相談を

かじめ主治医と相談するといいでしょう。妊娠中も服用し続けられる薬が多くあります。また、妊娠時に胎児への影響を心配して服薬を中止する方がいますが、自己判断でやめると母体の健康状態が悪化し、胎児に悪影響を及ぼすことがあります。

妊娠初期には服用できないが後期には服用できるもの、その逆のもの、全期間服用できないもの一と、薬にはいろいろあります。妊娠初期に服用できない薬の中には、服用中や服用後の数日間は妊娠

を避けなければならないものがあります。そのような薬を服用する時は、パートナーとともに一定期間、適切な方法で避妊することが必要です。

服用中に妊娠に気付いたら、すぐに薬を処方している医師か妊娠を診断した医師、または薬を販売した薬剤師に相談してください。なお、妊娠初期には兆候がなく、尿を用いた妊娠検査薬で陰性になることがあるので注意してください。

パートナーが薬を服用する場合も、精液中に薬の成分が入ることがあります。

胎児への影響については、まだ分かっていないことが多いですが、薬によっては一定期間の避妊が必要と考えられています。

妊娠中や、妊娠の可能性ある時の服薬についての注意点や情報は、厚生労働省のウェブサイトにも記載されています。サイト内で「妊娠と薬」と検索してください。正しい知識と情報を得て、妊娠中も安全に薬を使用しましょう。

(竹下 秀司・県病院薬剤師会理事)